

そらのとり

岩見沢聖十字幼稚園だよりNo. 1

2022年4月19日発行

1年のスタートの聖句

『主はすべてのものに恵みを与え

造られたすべてのものを憐れんでくださいます』(詩編 145章9節)

4月の聖句『神は愛です。』

神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってくれます。(新約聖書ヨハネの手紙Ⅰ 4章16節より)

かつて、書いたように思うのですが、日本にキリスト教が伝えられた16世紀後半、カトリック宣教師は「愛」を「ご大切」と訳しました。日本語の「愛」と、聖書の示す「アガペー(愛)」にはズレがあったからです。聖パウロの言葉を引用するなら「愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。…すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える(コリントⅠ 13:4以下)」と言います。そのようなものが愛だと。日本語の「愛」とは少なからず隔たりがあります。わたしたちは「愛」の名を借りて支配的になったりしますが、聖書の示す「愛」は奉仕的です。それも究極の忍耐深さなのです。

そのような神の愛によって、私たち一人ひとりが大切に受け入れられていることを聖書は語ります。そして、その愛はすべての人に注がれています。ゆえに聖ヨハネは「愛にとどまる(つながる)」ように呼びかけます。



チャプレン 司祭いけたとおる

子どもの笑顔と平和を守るには

園長 菊地 和子

空知のコロナ感染者が、また増え始めました。さらにニュースでは戦争の痛ましい映像が流れ、地震や異常気象や虐待の増加など、みんなの心を不安の雲が暗く覆います。何が出来るだろう・・・と考えた時、私たちが一杯できる事と言ったら・・・?せめて子どもたちが安心して、愛情の中で力強く成長できる日々を作ることではないでしょうか。

それなら非力な私でも、一步、何か・・・何かはできそうな気がします。

少しでも希望の方向に、大人たちが一緒に手をつないで進んでいきませんか?

いよいよ2022年度がはじまりました! 園庭の準備が整うまで、おへやで遊ぶみんなです。



一人一人が尊重される幼稚園に

4月4日(月)預かり保育をお休みさせて頂き、全職員の顔合わせと会議をしました。会議の前後には、2つの研修を行いました。

朝 聖十字幼稚園は教会の幼稚園なので、キリスト教保育の基礎について、チャプレンの池田先生にお話して頂きました。



午後 昼食後「子どもを尊重する関わり方」について。



「見失った羊」のたとえ。100匹の羊を飼う羊飼いが、迷い出てしまった1匹のために森や谷をまわって探し出す。1より99の方が重いと考えられるが、多量個別の1を重んじないという事は、残りの99も重んじていない事。子ども一人一人に、「自分は神様につくられた大切な存在なんだ」と覚えていてほしい。...先生たちの心に一人一人、子どもたちの顔が浮かんだことでしょう。

